

令和3年度淀川区区政会議

安全・安心なまち部会

日 時：令和4年2月15日（火）

午後6時28分～午後8時28分

場 所：淀川区役所5階会議室

○田口政策企画課長

皆さん、こんばんは。本日はお忙しいところ御出席いただきまして誠にありがとうございます。会議の開催に先立ちまして、皆様方に御案内させていただきます。会議は公開のため、議事録を作成するため録音しておりますので、よろしく御了承のほどお願いいたします。なお、携帯電話は電源を切るか、マナーモードに切り替えていただくようお願いいたします。

ちょっと時間は早いですが、皆様おそろいですので始めさせていただきたいと思えます。

ただいまより、令和3年度第1回淀川区区政会議安全・安心なまち部会を始めさせていただきます。私は本日の進行役を務めさせていただきます、淀川区役所政策企画課長田口と申します。よろしくお願い申し上げます。

委員の皆様には、御多用中のところ御出席いただきまして誠にありがとうございます。委員改選後初の安全・安心なまち部会となります。委員の皆様、本年もどうぞよろしくをお願いいたします。

それではお手元の資料を確認させていただきます。

まず、会議の次第でございます。あと議事の参考として裏面に進行表です。大体の時間の配分を記載しております。続きまして、配付資料一覧と部会名簿、その裏面に今の座席表が付けております。さらにご意見票、「よどマガ！」2月号、くらしの便

利帳淀川区、あと返信用の封筒も置かせていただいておりますので、御確認ください。

続きまして、事前に御自宅に郵送させていただきました資料について確認をお願いします。資料1、令和3年度第1回安全・安心なまち部会の今回御議論いただきたい内容、御意見を伺いたい内容の1種類の資料につきましては御持参いただけておりますでしょうか。もし今お持ちでない方がいらっしゃいましたらお申しつけください。

本日の出席者については部会名簿と座席表が表裏になっているものを御参照ください。本日の座席については、議長、副議長をこの後選任いたしますので、部会名簿の五十音順にて配席しております。

本日は委員改選後初の部会となっておりますので、改めて自己紹介も兼ねまして簡単に皆様から一言ずつ御挨拶をお願いしたいと思います。それでは加藤委員より順番に時計回りでお願いいたします。

○加藤委員

こんばんは。野中から来ました加藤です。

この安全なまち部会、初めての参加となりますけれども、できるだけしっかりまとめた自分の意見が述べられるようにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○佐々木委員

こんばんは。塚本から参りました佐々木と申します。今回、区政会議は初めて参加させていただきますが、安全・安心なまち部会ということで地域では町会長をさせていただいておりますので、その辺りまた地域に持って帰って話が進められるように頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○杉本委員

こんばんは。木川から来ました杉本と申します。安全・安心ということで、私も防災リーダーやっておりますので、身近に感じているものの一つというふうに考えていますので、今後ともよろしく願いします。

○田中委員

こんばんは、東三国から参りました田中でございます。今期で安全・安心なまちづくり部会は2期目になります。1年目はなかなかコロナの関係で会議に出られなかったりとかあったのですが、今年、今期どうなるか分からないのですけれども、精いっぱいやりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○永野委員

新北野から来ました永野です。2期目です。1期目のときも安全・安心まち部会をやっていたのですが、正直いってどうしたらいいのか分からないというか、すごく迷うことが多いので、2期目でもう少し何かお役に立てることがあればなと思っております。よろしくをお願いします。

○平野委員

こんばんは。新東三国から参りました平野と申します。よろしくをお願いします。今回初めての参加となります。右も左も分からないのですが、何かお役に立てることがあればと思い参加させていただいています。よろしくをお願いします。

○山本委員

木川東から来ました山本留美と申します。淀川区に住んで10年ぐらいなのですが、子どもも女性も安心できるようなまちになればいいなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○横山委員

こんばんは。公募委員の横山と申します。住まいは東三国です。区外からたくさんの方が流入する原因には安心・安全というキーワードが必要だと思っておりますので、その辺はしっかりとこの部会で議論しながら高めていけたらいいなと思って参加します。どうぞよろしくをお願いします。

○田口政策企画課長

ありがとうございます。では、続きまして、本部会の所管事項に関連する業務の

担当として出席している区役所の職員からも自分の担当する業務も含めて、一言ずつ自己紹介をさせていただきます。よろしくお願いします。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

こんばんは。市民協働課の相談調整担当課長代理、何かと申しますと防災・防犯の担当をやっております舟木と申します。再任用で、もうちょっとしかないのですが、皆様に少しでもお役に立てたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○畑中市民協働課長

皆様、こんばんは。市民協働課長の畑中です。まちづくりの担当と防災・防犯の担当です。全体会議にはまちづくりのほうに出席させていただきましたので、今日は部会のほうに参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○田口政策企画課長

こんばんは。政策企画課長の田口です。この会議の進行役も務めさせていただきます。ふだんは区役所の広報広聴等担当させていただいております。よろしくお願いいたします。

○浅灘保健福祉課長

こんばんは。保健福祉課長の浅灘と申します。保健福祉全般ですが、保健福祉の子育てとか生活保護の関係にはほかの課長がおりますので、それ以外の部分の担当です。どうぞよろしくお願いします。

○大畑保健副主幹

保健福祉課で保健副主幹をしております大畑と申します。よろしくお願いいたします。業務につきましては、地域福祉、あと高齢担当ということで虐待等の担当もしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○山村保健福祉課業務調整担当課長代理

こんばんは。保健福祉課業務調整担当課長代理の山村と申します。生活困窮者の支援システムを中心に保健福祉課内の業務の調整を担当させていただいています。どう

ぞよろしくお願いいたします。

○田口政策企画課長

ありがとうございます。この会議は本日午後 8 時 20 分を目途に、遅くとも 30 分までには終わってまいりたいと考えておりますので、御協力いただきますようお願いいたします。また、発言、説明の際にはできるだけ簡潔にまとめていただき、スムーズな進行に御協力いただきますようお願いいたします。

それでは、次第 3 の (1) 議長及び副議長の選出に移りたいと思います。12 月に開催いたしました全体会議と同様に、この安全・安心なまち部会においても議長及び副議長を互選により選任していただきたいと存じます。議長、副議長には事務局より本日の進行シナリオをこの後お渡しいたします。また、3 月に開催予定の全体会議で、議長におかれましては本日の部会での意見交換の内容を報告していただく予定となっておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、議長と副議長をどなたにお願いしたらいいかということにつきまして、御意見はございますでしょうか。いかがでしょうか。なかなか、初めての部会ということで。初めてお会いされたりとか、お話ししたりということで、お互い気心が知れてないかもしれませんけれども。

どうでしょうか。

○永野委員

いつも固定しちゃうんですけど、随分乱暴な意見のようかもしれないけど、不評かもしれませんが、何回やるのか分からないですけど輪番でやりません。

○横山委員

毎回変えるということですか。

○山本委員

1 回やった人は次からこう。

○横山委員

それはどうなのでしょう。聞いてみないと。

○永野委員

やりにくいですか。

○事務局

部会の中で決めていただいたら、それはそれでやり方としてはあると思います。

○田口政策企画課長

だから今日、議長を決めていただいて、今日の進行をやっていただくと。次、全体会でも御報告いただくということによろしいです。

では、どなたか挙手あるいは御指名とか。

○永野委員

1回目は運が悪かったと思うかですね。

○横山委員

いやいやいや。そらぜひ、ぜひぜひ。もう私は、やりたい人が。

○田口政策企画課長

当然事務局もいますので、こっち側、顔見ていただいたら、一緒に進行させていただきますし。例えば議長決まっても全部お任せというわけでもありませんので。人数も少ないですから、結構皆さん言いたい放題という雰囲気になったらいいなどは個人的には思っていますので気軽にやっていただいたほうがいいかもしれないです。どうでしょうか。

田中さんどうですか。すみません。

○永野委員

よろしく。

○田口政策企画課長

こっちが言うたったらあれなんですけど、実は互選なんで、皆さんで話し合っただくのが本来ですので、すみません。

よろしいですか。ありがとうございます。

○田中委員

やらせていただきます。私によければ。

○田口政策企画課長

それではもう、副議長のほうも、もう、もしあれでしたら御指名いただいて。

○田中委員

永野さん。

○田口政策企画課長

永野さん。ありがとうございます。

○横山委員

その副議長の方が次議長やって、次の方が。

○田口政策企画課長

それでもいいかもしれません。

はい。それでは、議長、田中委員に、副議長を永野委員に。輪番ということで、順番にということでよろしいですか。はい。

決定いたしました。御協力いただきありがとうございました。

なお、通常は議長、副議長は委員席の中ほどに並んで配席しておりますが、資料の移動等でお手数おかけすることになりますので、本日はもう席札だけ置かせていただきますので、よろしくをお願いします。

それでは、以後につきましては議長と副議長に会議を進行していただきたいと存じます。田中議長、よろしくをお願いします。

○田中議長

では、議長を務めさせていただきます田中でございます。よろしくをお願いします。

それでは、次第に則して、議題（２）「防災情報の発信について」進めてまいります。まずは、区役所から説明をお願いします。

○田口政策企画課長

12月の全体会議で各部会のグループごとに委員の皆様が議論したいテーマについて意見交換していただきました。その中から、本日の部会では4つのテーマについて御議論、御意見をいただきたいと思っております。なお、全体会議のグループでの意見交換では、防災訓練について等の話をしたいとの意見がありましたが、時間の関係で今回取り扱えませんでした。前回、意見交換をしていただいた内容は、各担当課としても改めて課題を認識させていただいたところです。今後とも御意見や御質問がありましたら、会議内や御意見票等で随時いただきたく思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、議題（2）「防災情報の発信について」、担当より説明いたします。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

市民協働課防災担当の舟木でございます。

本日の議題の2番目、災害時における防災情報の発信について、情報というのは非常に大事だということ。そして、お手元の資料に則して、していただくような形になるかと思いますが、防災情報につままして事前の準備と、いざ危険が迫って発災したときの2つに大きく分かれるわけですが、それぞれに重要性は非常に高いと。ただ、発災時の情報というのは実はほとんどみんな経験がないわけです。色合いが違うんですけれども、数多くの情報をたくさん知っていただいて、しかもそれは適切な、的確な情報でないといけないということは重々行政としても分かっております、そこをいろいろな形で情報発信するということ、内容的にも精査しながら発信はしています。淀川区でも今、紙媒体「よどマガ!」、「よどマガ!」の中に防災マップを入れてみたり、それからくらしの便利帳のところにも入れてみたり、いろいろなことをしています。それから、電子媒体をいっぱい今ははやっておりますので、ホームページにも、それからLINEやツイッターを使って情報発信もしております。ただ、これは数多くて分かりにくいという御意見もいただいたりもしております。その中で、現行して

いる情報発信について市民目線で見るとどうなのかと。抜本的な改善が必要なのではないかと、いつも疑問には思っております。改善、もし、これでこれはいいのだけでも、ここを改善したらどうなのという御意見をいただけたらと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○田中議長

では、意見交換に移らせていただきます。

防災情報の発信について御意見をお願いいたします。

○杉本委員

いいですか。

○田中議長

はい、お願いします。

○杉本委員

私は西中島で不動産業をやってまして、不動産の賃貸とか、賃貸マンション等の貸付や事務所の貸付をやっているんですけども、業務上の法令で決まった内容で重要事項説明書というのがあるんですけど、そこに防災マップをつけることになっているんです。この去年か何かの法制改正でなったんです。確かに情報発信という意味でいいと思いますし、私自身、個人的には情報発信の手法、方法はもうこれで十分じゃないかなと思うぐらいきちんとされているのではないかなと僕は思っています。ただ、後は捉えるほうの立場の人間の方で、重要に感じなければ例え目の前にぶら下げられても要らない情報は読まないし、見ないしというのが人間の常でありますので、これはやむを得ないのではないかなと思ってます。危機が起これば見るでしょうし、自分にそういう災いが起こって初めて関心を持つというのが人間の性だと私は思っていますので、情報発信については何らかの形でやっていかなくではいけないのだろうとは思いますが、けれども、ある意味、本当にくどいぐらいやっておられるので、私としてはこれでもいいのではないかなと。これ以上何かあるのかと言われたら、恐らく私の頭の中で今思

いくつかものがないのでいいのではないかな。ただ、例えば、災害が起こったときですね。この発信ですが、私先ほど言いましたように防災リーダーをしているのですが、実は明日も警報訓練が予定されてまして、明日は11時かに防災の警報が鳴ることになってると思います。それはもう防災リーダーのほうに情報としては入ってきているのですが、私はそういうように情報が入ってきていても、その警報を小学校のスピーカー等で聞いたことがない。正直言って聞こえない。いつそういうことが起こったのか全く聞こえてこないし、そういう点でまだまだやるべきことがいっぱいあるのじゃないかなと。もう小学校でうるさいほどサイレン鳴らされても、多分、私、西中島にいますけど木川小学校のサイレン全然聞こえないし、後で聞いて近所の人に話聞いてみても、木川東に住んでますけども、聞いてみても知らないという人のほうが多い。これは具合悪いのではないかなと。これは何らかの形でもっと発信というか情報を伝える方法があってもいいのではないかなと思っています。それが何がいいのかというのは携帯を鳴らすという方法ももちろんあるでしょうし、もっとほかにメディアなり、近隣の公共機関のマイクで使うなりそういうことをする必要があるのでないかなと思っています。でないと、多分逃げ遅れるのではないかと危惧している次第です。

以上です。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

ただいまの意見について何かございましたら。またほかの御意見でも構わないです。

東三国のほうでも小学校でそういう警報が鳴るのですが、聞こえないですね。私も同じように役員やってまして、明日警報がなりますということを聞いているのですが、方向、角度によって全然聞こえないですね。この辺は何とかしていただかないといけないのかなと思いますけど。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

よく聞こえないとかいうのを、逆にその放送を使って、これがハウリングを起こ

して、大き過ぎて等いろいろな御意見もありまして、それうるさいわという声は我慢していただくというように言っているのですが、聞こえないというのはどうしても建物の構造、新たな建物が建ってくると、前まで聞こえていたのに全然聞こえなくなった等いろいろありまして、それはきめ細やかに対応していかないといけないというのは常に思っているところでございます。ただ、あるときは聞こえてたし、風向きでも聞こえなかったりとかするので非常に悩ましいところではあります。でも、これは宣伝ですけども前はアナログ放送でやっていたのですが今はデジタル放送に全部切り替えていってまして、できるだけ聞こえるようには、この辺も大阪市危機管理室中心に非常に真面目に取り組んでおりますので、御理解賜るようお願いいたします。

○田中議長

ありがとうございました。

○畑中市民協働課長

補足ですが、この防災とはずれるんですけども、最近、この1か月ぐらいは鳴らしてないのですが、特殊詐欺がかなり増えていまして、本当に淀川区、スポットで電話かかってきているんですね。警察から依頼があって、鳴らしてくれということで防災無線使ってというのもあるのですが、流せば流すたびに同じように聞こえない、聞こえ過ぎというような問題が出てきているとなつて、我々も危機管理室と調整しながら先ほど言いましたデジタル化というのでお知らせしていく中で、また聞こえにくいところや、よく地域だけでも鳴らせないか等の御意見もいろいろ聞いたりしておりますので、もし改善できることがあるら危機管理室と調整してやっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○杉本委員

例えば、訓練でできないと思うんです。訓練で、例えばいろいろなところからマイクで地下鉄使ってやってといってもそれは無理な話だと思います。ただ、実際に起こったときにどうするかだけ決めておかないと駄目だと思います。小学校のマイクだけ

でいいですよというのではないと思います、恐らく。それなら何をするかというと、例えばパトカー走ってパトカーで被害がこういうのがありましたということも、それを明記するかしないかだけの問題かもしれないし、それこそ考えてるか考えてないかだけの問題だと思います。全部が全部スマホにサイレン鳴らしたりっていう訓練はなかなかできないと思うので、実際にそういうようにしようというのではなくて、結局そうなったときにこういう情報発信、こういう方法がありますよということを明記して、やれそうなものだけ列挙しておくというのは必要じゃないかなと僕は思います。

○田中議長

ほか、誰か御意見ございませんでしょうか。

横山さん。

○横山委員

はい。横山です。

ここに情報発信、2段階あると先ほどおっしゃってまして、杉本さんもおっしゃったように平常時の事前準備については、確かに非常に淀川区も紙媒体であるとか、インターネットを活用して発信されていると思います。これは今、たくさん世代で、情報を受け取る側の状態もありますので、非常にいいことだと思うのですが、発生時のおときですね、これはもう受け取る側に限らず、ここを見ておいたら大丈夫という何か安心感が欲しいのです。その今いう2段階のうちの最初は受け取り側に対して紙なり、インターネットや宣伝、いろいろ使って、どんどん情報発信しておいて、発生時はここ絶対見ておいたら大丈夫というようなことを何か作れないものかとは思いますが。それがラジオなのかテレビなのか分かりませんが、その不安感がいつもあるんです。情報発信している側はたくさんとにかく発信する。見る側としたら結局どこを見ていいのか分からないというのがすごい不安なところがありますので、(2)のその発生時は、これだけとにかく一番最初に見てというものを何か作ってほしいなと思います。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

準備と実際のところの橋渡しする感じですね。安心感とおっしゃったのにまさにそうですね。実際のところ大雨など降りますと私どもは夜でも警報が出ているときの対応するのですが、そのときには何をしてるかというのは、まずツイッターで最低限の情報発信する。皆さんがテレビやラジオからの情報を取っていただいている。ツイッターが一番最初。それからあと、今は防災LINEのほうも登録をしていただいて、お友達になっていただくと、何でもかんでも来ません。もう本当に年に1回、2回、去年も1回か2回しか出してないです。そういう本当に肝心なときはLINEの情報を、LINEって通じやすいので、そういう情報も発信するようには。少しでも安心していただけるように。ただ、それでは足りない、電子媒体を持っていないは人どうなのということも逆に言われてまして、そうすると、ラジオかなとか思ったり。ラジオって手回しラジオでないと電池が切れたらアウトなので、そういうのも備えていただくとか、幾つもの媒体を使っていただきたいなと思っております。

貴重な御意見です。ありがとうございます。

○横山委員

今、ヒントをいただいたのは、デジタル媒体でツイッターが一番最初にとおっしゃったその情報がないんですよ。それは発信されてますか。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

ツイッターということを。

○横山委員

そうそう。ツイッターで発信、受け取るのが一番早いですよということが実は知りたいわけですね。その内容はもちろんですけども、それならそのツイッターに登録しておいたら一番最初に情報を受け取れるということをお教えいただけるとありがたいです。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

そうですね。

○横山委員

LINEもなぜかというところ、そのLINEが一番つながりやすいからと。こういう理由を伝えていただけるほうが。内容はもちろんなんですけども、受け取る側の順番。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

一つは、ホームページのほうも。ホームページチェックしていただくと、かなりの情報になりますと災害の場合はそこにも載ってきますし、そういう意味では、何か見ていただくとしたらまず区のホームページがつながるかなというところ見ていただけたらと思います。ここでツイッターのこと言いましたから絶対ツイッターは御覧になると思うのですが、ぜひぜひお願いしたいのはLINEのほうの数を増やしたい。お願いいたします。

○瀧谷市民協働課担当係長

防災担当、防犯担当係長の瀧谷です。こんばんは。

今の、御意見を踏まえまして、私どもツイッターの情報発信をしているという事実の発信ですね、そういうのが今、御意見いただいて非常に大事だなと思いましたが、個人的にもツイッターのフォロワー数というのをどんどん、どんどん増やしていけないなと思っております。今、ツイッターをフォローしてねという広報媒体自体が今ない状態ですので、今この御意見いただいた機会に防災LINEのチラシと、例えば両面にするか、あるいは1枚、1枚になるかもしれないですけども、ツイッターでも災害時、例えば本当に出水期ですね、大雨警報がよく出る時期等はまずツイッターで情報連絡体制を取って、06-6308-9743にお問い合わせくださいというのをまず一番に発信しておりますので、そういう、いわゆるツイッターの意義を伝えるというチラシですね、それを作れるように検討していきたいと思っております。

以上です。

○田中議長

ありがとうございました。

女性の方で何か御意見等ございませんか。

はい、どうぞ。

○永野委員

いや、もう言っていたので。

防災用品をそろえてとか避難する場所をちゃんと覚えておきましょうとか、そこら辺はもう十分だと思うんです。実際、自分がこれから地震とか何かなったときに、多分、起きてからトイレどうするの、水どうするのとか、そういう情報が欲しいということでおたおたするというのが大抵普通の人じゃないかなと思います。だからもう、起きる前の発信はもう十分だと思うので、起きてからさっきおっしゃったように、どこに聞いたらいいのというそこだけをもう十分刷り込むように教えといていただければありがたいです。

○田中議長

ありがとうございました。

山本さん、お願いします。

○山本委員

先ほどのツイッター等なのですが、見られない人も多いと思うので、小学校の前を毎日のようによく通るのですが、掲示板みたいなものがあると思うのですが、あまりほとんど何も貼ってないなって思うんです。小学校に関係するようなことしか貼ったら駄目なのかなとも思うのですが、そういう掲示板にそういう内容を載せてあげたらもっと見る人が増えるんじゃないかなと思ったりするのですが、子ども目線のほうが伝わりやすいのかなと。友達同士でしゃべったりとか、親同士でそういう子どもの口コミみたいなのが一番いいのかなとも思うのですが。

あと、掲示板、結構数あると思うのですが、何か貼ってる内容はいつも同じというか、あまり変わってないのかなというのがあって、たまに見たら、「おっ」て思うこ

とも貼っていらっしゃるのですが、もっと活用できればいいのではないかなと思います。

○田中議長

それに対して、行政のほう何か。

○畑中市民協働課長

そうですね、掲示板、直接我々が管理しているのは七十何箇所あるのですが、実際この警報が出たら避難と書いてるいつもの同じポスターだけというのは確かに御指摘のとおりかと、最近はワクチンの関係のお知らせをなるべくタイムリーに貼るようには心がけているのですが、もちろん防災の面ということでも新たなもので、また皆さんの目を引く興味をそそるようなものを考えて貼るようにはさせていただきますので、よろしくをお願いします。

○田中議長

よろしくをお願いします。

○永野委員

防災時の情報発信はどこで誰がどう決めてというか、要するに区の自由度はどれぐらいあるのですか。

というのはね、すいません、区役所の皆さんを責めるっていうのではないんです。このたびのワクチンとかコロナの大阪市、府の情報発信を見てるとすごい不安なんです。情報処理できてないわけでしょう。感染者の数も正確に反映できてない。どこかで根詰まりしているか、情報発信が、処理とか発信が。それっていざ災害になったときに、市や府から下りてくるのを区が待つということになると、すごい遅れませんか。そこが不安なんです。実際、地域の情報を持っているのは区なわけですから、区の人が区の判断によってきちんとできるようにしていただければ安心かなと思うのですが。

以上です。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

○畑中市民協働課長

おっしゃるとおりと思いますが、ワクチンに関しては、もう確かにおっしゃるとおり府から市に下りてきて、市から下りてきた内容をお知らせという部分になっているのが正直なところですが。区の自由度といいますか、これは皆さんにお知らせしたほうがいいと思う情報を、その掲示板やツイッターを利用してという形でさせてもらう。その、どれを発信するということは区によっての差配ができるかと思うのですが、内容については大まかなところはもう下りてきている情報を。あとどう加工して、区が地域の方にどうやって分かりやすくなるかというところでの発信の仕方になるのかというのが今の実態です。

○永野委員

そこら辺のシミュレーションをきちんとやっていただけると安心だなと思うんです。

○田中議長

杉本委員。

○杉本委員

すいません、度々申し訳ない。

私はもう64になったばかりなんですけど、正直言ってスマホ等はまだ使うのが苦手なんです。ツイッターとかいろいろありますが、なかなかつなげるのが面倒くさくてつなげない、もう電話としてしかほとんど使ってないんです。最初に何を、情報を選ぶかというテレビなんです。阪神大震災、27年ほど前あったときに、最初に何で情報をつかんだかというテレビです。停電になったとはいえテレビなんです。テレビで阪神高速が落ちてるのを見て、これは大変だと思って、改めて。それまで僕、ゴルフ行く予定していたので、その日。でも、あれぐらいの地震だったら大丈夫かなと思いつつも支度してたんなんです。ところがテレビつけて、神戸で、阪神高速落ちてて、

これは今日はないわと。早いこと会社へ行って情報集めないとかやばいなと。行ってみたらもうむちゃくちゃです。だから、何が言いたいかという、若い人は分かりませんが、ある程度の年配の人ってテレビの媒体っていうのは非常に重要視するので、できれば淀川区でテレビつくれとは言いませんけれども、大阪自体が専属でできるような、大阪がもし被害を受けたときにそのチャンネルつければ大阪市の状況が分かるみたいな感じのものがあれば、一つ安心、我々年行った人間でも安心できるんじゃないかと。神戸のほうのサンテレビなんか見てると、結構兵庫県のニュースをやっているんです。防災の件だとか。これ大阪にあったらいいなっていうような情報を結構発信しているんです。ところが大阪の情報があるかというとなんです。民放しかない。確かに民放の情報が多いですけども、民放の情報って最近、東京の情報しか入らないですから、大阪の情報入ってこない。ですから、淀川の区役所に何かやってとは言いませんけれども、逆に大阪全体でそういう神戸のまねしてとは言いませんけれども、テレビで何かこう一つ、そこのチャンネルさえ開ければね、災害の状況が一目散に伝えてくれるというようなものが出来ないものかと感じた次第です。

○畑中市民協働課長

ありがとうございます。

完璧ではないんですけど、ケーブルテレビですね、実はいろいろ地域活動や防災の関係でもこんな訓練やりました等をケーブルテレビで。ケーブルテレビが淀川区で視聴できるのがどの程度まで行けるのか分からないのですが、ケーブルテレビを通じた発信というのが最近多くなってきている部分がありまして、今の御意見でももちろん災害時にそういう形で、ほかの区とも一緒になるかもしれないのですが、何か載せられるようなこと、協定で何かできることがあるのでしたら1回調べて、調整させてもらうようにします。ありがとうございます。

○田中議長

ありがとうございました。

せっかくなので皆さん、御意見。加藤さん、御意見何かあれば。

○加藤委員

いろいろな情報を発信していただいているのはよく分かりまして、LINEであるとかツイッターとか。これに対する反応というか反響というか、もちろんフォロワー数なんかもそうなんでしょうけれども、ほとんどが若者が中心になると思うのですが、その反応的な意見みたいなのはどれぐらい来るのかなということと、それと逆に高齢者についてはどうするんだと。さっき言うたようにテレビは見るけども、広報誌見ない、新聞もほとんど読まない、あんまり人の言うことは聞かないみたいな感じの人がいるのですが、何がいいのかと考えたときに、時々青パトというか、回ってますよね。あの声が意外と聞いてて、こういうのが回ってたなという人もいたりして、本当に災害があって、ここ逃げないといけないとか、こんな津波が来るといときには、例えば、重点的にでもここが危ないというところについては声で直に近所を回るとか、ずっとこう流していただくとか、そういうことが必要なのではないかと思います。なかなか、さっきおっしゃったようにLINEも見ない、ツイッターって何というような方もおられます、携帯もガラケーであったり、スマホが嫌という方もおられますので。その辺も考えて若い人に対してその反響どうなのか、お年寄りに対しての対応なんか一度考えてみたらどうかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○畑中市民協働課長

ありがとうございます。

青パトの関係は、確かに直接声が聞けるというところで、防災の関係では実際まだ行けていない部分もあるのですが、防犯面では、2年前か、千里のほうで1回、交番に警察官を襲撃した事件があって、あのときはその日からずっと青パトで区内回って、こういうのがまた潜んでいるかもしれないという形でケアさせてもらったり、そういう形で特殊詐欺の関係でもさせてもらっていますので、防災の面で、そういうときに

活用できるように。もちろん、車で行けたらという話ですけども、それも検討させてもらいたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○田中議長

ありがとうございました。

佐々木さん、どうですか。

○佐々木委員

事前にマップは1年に何回か配って、1年ぐらいたって捨ててもまた絶えず家にはあるというような形でしつこく配布してもらいたいと思います。

それと、情報発信、災害発災時の件なのですが、区役所が区民の皆さん個々に、全員に対応しているようなツイッターとかですね、そういう形というのはなかなかしんどいと思うので、地域との連絡、それからまた地域から町会への連絡、町会から班長への連絡みたいな形で、隣のおばちゃんが聞きにきても答えられるぐらいの新しい、早い情報ではないのかもしれないですが、区役所からこういうのが言ってくるから安心してとか言えるような形がいいのかなと思います。

以上です。

○田中議長

ありがとうございました。

せっかくなので平野さん。御意見を、一言。

○平野委員

自分の母親を見てると独居なのですが、人づてに聞く、近所から聞くことのほうが信用されるし、なじみやすいというのがあると思うので、先ほどもおっしゃっておられた区役所から町会にだんだん下ろしていってもらおうというのを、しつこいほどにやっていただいたらいいのかなと思っています。それが一番なじむのかなと思います。誰かが近所で知っていれば対応できることっていっぱいありますので、誰かが知っていればいいのかなというところは思います。個人で知っているだけになる場合もあり

ますけど、それを何かのときにはみんなで共有してというのが一番いいのかなと思います。

以上です。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

皆さん、貴重な意見ありがとうございました。時間もございますので次の項目、「企業市民の防災について」に移らせていただきます。まず、区役所のほうで説明をお願いいたします。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

続きまして、また私のほうから、企業市民の防災についてというテーマで御説明させていただきますと思います。

企業市民という言葉自体が適切でないのかもしれませんが、お昼間にだけいらっしゃる市民の方も入って、防災としてのまちづくりというのはそういう観点が大事なのではないかと、そういう関心は常に持っておりまして、そういうことから御説明させていただきますと思います。

実は、淀川区内、事業所も大変多くて、昼間流入人口が9万4,000、これ、今回の国勢調査でもう少し増えるのではないかと考えているのですが、かなりの企業とそれから団体、あるいは学校へ通っている人たちはたくさんいるということが分かっています。もちろん、逆に出ていく人もいるわけですが、昼間に災害が発生したら当然そういう企業でお勤めの方、学校にいらっしゃる方、被災者になるわけです。阪神大震災なんか朝だったので大丈夫だった、あまり関係はなかったようですが、こういうことが起こる。そういう対策が絶対に求められるだろうというのは、前回の区政会議で皆さんのそういう御意見が結構多くて、これは大事な話だなと思い、今回テーマとして挙げさせていただきました。

それで特に大きな会社ですと、企業内で、既に防災対策を講じられているところも

あるのですが、そんなに大きな事業所ばかりではないので、個別にばらばらにやっていたのではなかなか効果が出ないのではないかと考えております。

これについて、発災時にどうしたらいいかというのは事前に決めておくということも、事業者さんと地域でとか、あるいは行政との間と、全部事細かくは決められないかもしれませんが、ある程度のルールを決めておくということが大事なのではないかと考えております。

実は、新大阪駅の周辺地域というのはターミナルで帰宅困難者というのが出ます。東京でもこの間の地震のときでも夜、帰れない人がいっぱい出たというのはありますし、大阪、梅田とかでもそうですけども、大雨降って電車が突然止まると帰れない人があふれかえると、そういうことに対応するために、実は新大阪駅周辺地区帰宅困難者対策協議会というのが平成27年にできておりまして、それは西中島辺りを中心とした地域、あるいは新大阪駅周辺の企業、学校、ホテル、そういうところで協議を進めて、ある程度情報を的確に提供する場所、あるいは一時避難ができる場所というのをある程度計画として定めて、協議会としてやっていただいておりますので、そういうルールづくりを進めているところでございます。そういうのがありますので、全く企業と防災というのが、企業市民とここで言ってるのがないわけではないのですが、そういうことをぜひやっていかないといけないと思いますし、これは新大阪駅周辺だけの話ではないと考えておりますので、なかなか難しいのですが、その辺について。だからといって例えば津波避難ビルでもそうですけど、事業者にも協力をお願いします、協力をお願いします、お願いしますばかりになってしまうと困るんですね。企業としても全部がやられたらかなわないとなりますので、その辺で連携する関係は持ちたいなと考えているのですが、なかなか行政の知恵がなくて皆様からこうしたらいいんじゃないのという御意見をいただけたらと考えておりまして、今日、議題に挙げさせていただいた次第でございます。

○田中議長

ありがとうございました。では、意見交換に移らせていただきます。

一応、7時35分ぐらい、40分弱ぐらいをめどに質疑応答していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

横山さん、お願いします。

○横山委員

すいません、部会を越えた大きなテーマになってしまうか分かりませんが、私、以前から、この区政会議自体の問題だと思っていました、先ほどおっしゃったお願い、お願いばかりで企業側が情報、意見を言う場がないんです。区政会議委員になぜこの企業の人たちの代表を入れないのかというのを以前から思っていました、ここに例えば企業の団体がいない中でこの話をして、さっきの話でお願いばかりになるような気がします。ここにもし新大阪の企業団体の長でも1人入っていれば、その立場から意見をもらえてすり合わせができるような気がするんですね。いきなり区政委員には入れずらいでしょうから、例えばここにオブザーバーでその企業の人に来ていただいて、意見をもらう場をつくってあげることからスタートしたほうが議論が深めやすいんじゃないかなというのはいつも思っていることです。

○田中議長

はい、ありがとうございます。

それに対してどうですか。行政のほうとしては。

○田口政策企画課長

はい、どうも貴重な御意見をありがとうございます。

そうですね、確かに今日の議題もそうですし、先ほどの話でも別に委員じゃなくてもオブザーバーとしても来ていただくという視点。今後、参考にさせていただいて、次のこの委員を決めるときにそれも視野に入れながらと考えております。ありがとうございます。

○田中議長

ありがとうございました。

そのほか、何か御意見等ございませんか。杉本さん、お願いします。

○杉本委員

私、町会副会長やってるんですけども、いつも気になるのは、各おうちに対応するんですけども、企業さんに対しては何の発信もしてないですね、町会は。町会費集めるときに特別町会費くださいとかいうことはするんですけども、実際にもらったらといってほんじゃあ、防災訓練のときに来てくださいってお願いしてるかというとしてない、できない。はなから来られないだろうなというそういう、休みの日ですからね、ほとんど。そういう気持ちもあって言ってないというのもあるんですけど、どだい町会の人間って、一員として企業サイドのことは何も考えてないのが現状なんですね。そうすると何がということになると、企業サイドからすると、もしそういう防災に関心のある企業があったとしても、どこに何を聞いていったらいいか分からない。そういう質問、前に企業サイドからされたことある。「杉本さん、どこへそれ相談しに行ったらいいかな。」、「町会長に言ってもらったらいいと思うんやけど。」としか言えなかったんですね。だから、そういう窓口をまず、企業サイドのそういう関心のある人、関心のないところもいっぱいあります。ほとんど、9割ぐらいが関心ないと思いますわ、恐らくね。けども、ふだんから関心を持っている企業さんもおられるので、そういうところに窓口をまずつくってあげるのが一つじゃないかなと。従業員のためにどういうふうにしたらいいのか教えてくれって言われたら、役所に行けっというんじゃなくて役所のこういうところへ行って、誰それに相談したらいいですよとかいうふうにするだけで、協力的な会社さんもまあまああるんじゃないかなと私は思いますけども。そういう意味で、そういう関心のあるところをどんどん、どんどん探していったほうが良いような気がします。

○田中議長

ありがとうございました。

畑中さん。

○畑中市民協働課長

ありがとうございます。

今回、防災という形でのあれなんですけども、実際その地域においてまちづくりの観点と活動とか、地域活動の観点でも地元の企業さんを入れていただくとかいう形で、運営方針のほうにも関わってくる話かなと思うんです。なかなか防災のほうまで僕らもあんまり行けてなかった部分もあって、その地域活動のほうで企業さん入っていただいってもらって、いろいろなことをやっていただくという視点はもう何年か前から、何ぼかずつでもちょっとでも広げていこうかなとはしとったんですけども、そういうところを今回防災のほうにも逆に入れていきながらということでの御指摘やと思いますので、今後その辺検討させていただきますので、よろしくお願いします。

○田中議長

ありがとうございました。

そのほか。佐々木さん、よろしくお願いします。

○佐々木委員

企業向けとして事業所向けとして、これが大きな問題やとか何かそこが私はまだ理解ができてないんで何をもってしてるのか、避難場所といたらその事業所のビルがいっぱいあるそこを使いほしたら逆にこっちが入れてほしいなとか思うし、じゃあ食べるもんはといたら飲食店あるからその場しのぎの食事はうちで作れますよとかって言ってくれはったりとか、何か自分とこできそうな気になって、何が大きな企業さんたちは問題を抱えてるのかということを知っていただきたいです。

○田中議長

どうですか。山本さん、お願いします。

○山本委員

私は、西中島の会社で働いているんですけども、会社からは防災のそういう水であ

ったり食料を備蓄するように指示があって送ってきてもらってるんですけど、本社からですね。そういう会社ばかりじゃないと思うので、淀川区の備蓄っていったら変な言い方ですけど水がありますよとか、避難時に、非常時に食べ物ありますよとかそういう発信っていうか、企業の人も、自分らばかり出すんじゃないくて、何か情報欲しいと思うんですよ。本当に困ってたらおっしゃってくださいみたいな感じですね。そうすると安心だなんて思う企業も多いと思うので、自分らで用意するのなかなかできない社長とか会社とか個人経営の方とかもいらっしゃると思うので、淀川区で前に公園の某公園の方と密にお話する機会があって、野良猫が多いということで相談を受けて、私、猫のボランティアというか不妊手術とかを個人でやってるんですけども、そういった対策等で相談を受けたのでお話しする時があったんですけど、ティッシュとか結構廃棄するのが多いとお聞きして、よかったらあげますよみたいな感じで大量にいただいたときがあって、そのときトイレットペーパーとか結構なくなるときがあったので、何かわざわざ薬局に並んで買いにいったりとかした時期が一時あったと思うんですけども、そういったときにすごい助かったなと思ったので、そういった情報とかもし企業に発信していただければ、向こうもこんなことができるのかというのが、物々交換じゃないですけどもそういった何ていうんですかチラシみたいなのをもし作ればいいのかなど思ってるんですけども、ポストに入れとくだけでも全然違うと思いますので。

以上です。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

永野さん。

○永野委員

企業市民の防災についてっていう、何でしょう、よく分からないんですよ。企業にとって、例えば地震がありました、社員が帰れない、帰宅困難になったとか、そのと

き宿泊施設をどうするかとかそういう企業とそこで働いている人、学生さんとかにとってということなのか、それともそこに暮らしている私たち住民とどこかで交流ができへんかということなのか、論点がよく分からない。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

両方でございます。これはその、まず企業の方にとって昼間の、いわゆる昼間市民といったらいいのかなと思うんですけども、その方も市民なので自らも守らないといけない、同じ命なのでという観点と、もう一つは、みんなと交流することによってそのまちづくりという防災のまちづくりという意味できちっと引けるんじゃないかというそこまで狙えないかと。実はもうちょっと言うと、企業の方は活動できる方が多いので、お若い方が多いので、お若いというか体の動く方が多いので、そういう意味ではお互いに助かるんじゃないか。地域の方は逆に高齢者が多いということが一般的には言えるかなと思うんですけど、そうなってくるとその分、でも場所はいろいろ提供できるじゃないのとか。例えば会館にある物資は使ってもらってもいいですよとかいうふうになればいいなど。

○永野委員

太陽・・・・。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

工業さんですか。

○永野委員

はい。テントのお話なさってましたよね。だからそういうこともできるんだろうなと思うんです。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

企業さんによってはそれぞれCSRとかそういうことを考えておられて、そういう部署から直接お問合せがあることはあります。やはり防災とかに関して一番窓口としてはなりやすいみたいで、ある程度協力したいというお申出があります。逆に私たち

もお尋ねすると、その場所を使ってもうていいよという代わりに、できれば、例えばお水を持っていけるとかそういうこともできたらいいなと思います。たくさん備蓄場所があるわけで、そういうことは考えてございます。それこそ佐々木委員から何が問題なのかって、最初に私、申しあげましたけど、昔からじゃなくて行政が直接行くと企業さんというのはまた回ってきた、奉加帳っていうやつで、次々、次々寄附くられて、それはあまり嫌なんですね。企業さんっていうのは。たまらないです、社会貢献という意味でやっていただくのはいいんですけど、そういうところは常にあったのかなと思ってまして。お答えになってないですけど、すみません。さっき考えていたんですけど、あまり思う言葉が、考えが出なくてすみません。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

今の意見に関してでも結構です。

はい、杉本委員。

○杉本委員

すみません、度々で何回も。大きい企業さんは先ほどからおっしゃってていいんですよ。いろいろな社員教育ができて。ただ、私も、いろいろな西中島って結構小規模の企業さんっていっぱいあるんですよ。二、三人の企業から五、六人の企業って。そういうところって何にもやってないんですよ、正直言って。社員さんに、パートさんに何にも伝えてない。西中島で、例えば「地震が起こったらどこへ逃げたらいいんですか。」って社長に聞いても教えてくれない。どうしたらいいねん。防災マップはあって、そんなん知らんで、回ってきたこともない。家には回ってくるんですよ。会社には回ってこないですね。だから一番問題は企業の組織じゃなくて、企業に勤めてはる人なんですよ、問題は。そういう人らが情報何も入れてもらってないから、自分の住んでる豊中や吹田、例えば十三でもいいです。西中島行って、十三のことは知ってるけど西中島のこと何も知らんと。どこへ逃げたらいいのって、西中島小学校って。小

学校どこにあんのと。分からへんって。こうなってくるんで、だからそういうことが企業情報ということがおろそかになっている一つの要因じゃないかなと。そこを埋めてあげないと、恐らく昼間に大きな事故が起こったときには逃げる場所も知らずに右往左往するということになるし、どこのマンション、どこのビルへどう逃げたらいいか分かんないということになるんじゃないかなと僕は思ってるんです。

もう一つ問題は、先ほど言ったように町会というのは企業を相手にしてませんから、人数の把握って自分とこの住民しかしないですね。企業の従業員さんの数なんて全然頭に入れてないですから、備蓄の数というのはあくまでも住民に対応した備蓄しかしてませんので、企業の社員さんがどっと押し寄せられきたら困るなというのは私らの町会でもしょっちゅう話してます。昼間に災害あったときに協力していただけるのはありがたいけれども、どっと社員さん、サラリーマンが押し寄せてきたらどうしようって話はよくしますので、そこも受入れがある、避難場所の受入れするところも一つこれからの考察として持っておかないといけないんじゃないかなと思ってます。

以上です。

○田中議長

ありがとうございました。

ただいまの意見で。行政のほうでどうですか。

○畑中市民協働課長

貴重な御意見。でも、おっしゃるとおり会社とかいうところは、どうしても我々地域となれば地活協なり町会というところにおいてというそちらのほうばかりの形になってるのは実際の話になってますんで、その中で確かに企業さんという視点は思いきり欠けている部分かなというのは確かにありますので、そこも含めて防災、先ほども申しましたけど、地域活動、防災のみならず地域活動のほうも含めて参画できる、いただくみたいな形のことをどうやってやっていくかということをもた今後考えていきますので、よろしくをお願いします。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

私も一言だけ。私も今、会社辞めたんですけども、以前、淀屋橋のほうで会社務めてまして、結構大きな会社だったんですけど、防災訓練というのはあるんですけども、ただそれで終わりなんです。例えば災害が実際に起こったときには、じゃあどこに避難しますかとかそういった情報は一切入ってこないんですね。だから、先ほど杉本委員がおっしゃったように、本当に地域ではよく知っています。でも、会社へ務めているときには、じゃあどこへ逃げたらいいのかとか、大体ふだん、地域でおったら学校に避難とかそういったことは分かるんですけども、それが何百人とかが一斉に押し寄せて、例えば淀屋橋ならすごい企業がいっぱいありますのでね。新大阪辺りでもそうだと思うんですけど、そういったことが確かに、本当に大事なことだなというふうに思います。

もう一つだけ聞かせていただいてもいいですか。

先ほどの新大阪のほうの帰宅困難者の協議会、これはどういうメンバーが入ってらっしゃるんですか。

○舟木市民協働課相談調整担当課長代理

帰宅困難者協議会としましては、先ほど申しましたように西中島地域とか東淀川にも、新大阪駅っていうのは淀川と東淀川に渡りますので、両側を挟むとこの地域活動協議会の皆さんが入っていただいて、もう少し。それから、あと、そちらにある、もちろん鉄道事業者もです。JR西日本、それからJR東海、それからあと大阪メトロですね、全部入っていただいておりまして、またそのほかに、大阪ガーデンパレスさんとか、新大阪ワシントンホテルさんとかもお入りいただいています。それからあと、福祉専門学校も入っていただいていますし、東淀川でいくと、今度は大阪市立の青少年センターでココプラザっていうところ入っていただいている。幾つか入っていただいている、今、幾つかあります、三十幾つだったと思うんですけどね、企業さん

と団体入れて、やっていますよね。実際のところ訓練としましては実際発災したという前提でここに集まって、ココプラザさんで情報を取っていただいと。長引きそうですからという情報を集めたら、そしたら今度ホテルさんのほうの協力を得てそこへ避難するとかですね、そういう訓練は過去にやっております。今、コロナ禍で実際人が集まるとこれはこれで問題なので、今年は図上訓練で。実際にこういう企業で、何人ぐらいの規模の企業で起こったということで訓練を。実際どうしますかと。人が、企業さんのところに帰れない人が来たらどうしますかと、そういうゲーム設定で訓練はやりました。そういうことを現在やっております。

○田中議長

ありがとうございました。もうあと一人ぐらい御意見ございましたら。ございませんか。次の議題もあるんです。これ、この資料1では、このテーマ2つですけど。こっちにも、すいません、私、裏見てなかった。申し訳ないです。

では、次の項目、「地域福祉活動に参加する区民を増やす取り組みについて」に移らせていただきます。まず、区役所より説明をお願いします。

○浅籬保健福祉課長

保健福祉課長の浅籬です。よろしく申し上げます。

「地域福祉活動に参加する区民を増やす取り組みについて」ということで、「気にかける・つながる・支え合う」地域をつくるために、地域での支え合いや助け合いの意識づくりを醸成し、地域福祉活動に参加するきっかけをつくり、参加者を増やしていくことが必要と考えております。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりまして、地域活動が制限され、人の交流がする居場所が減るなど地域福祉活動にも影響が出ております。今後、どのような取組を行えば区民の地域福祉活動の参加へつながることができるか御意見、前向きな御意見をいただければ幸いです。もちろん、御存じのとおりですが区社協の見守り等によりこちらで進めているところもございしますが、地域に根づいた活動をするために

はということで御意見をいただければ幸いです。保健福祉課の提案ですので、地域福祉活動に参加するという取組ということで、これ地域活動ではございませんので、地域活動に関する質問が出たら、たまたまいてます市民協働のほうに振りたいと思いますので、よろしくお願いします。

○田中議長

ありがとうございました。

では、意見交換に移らせていただきます。「地域福祉活動に参加する区民を増やす取り組みについて」、御意見等ございましたらよろしくお願いします。

佐々木さん、町会長をやってるんで、どうですか。

○佐々木委員

参加者を増やすという意味では、行事の数を増やすのか、その一つの行事の参加人数を増やすのかというどちらかになるかなとは思いますが、行事を増やすというのはお手伝い、運営していただいている方々の人数も限りがありますので、今の現状ではなかなか難しいかなと。地域活動をやりながらも参加者が少ない行事というのは、お年寄りを相手にしている手芸とかそういうふうなところでは結構人数少なかったりするんで、そういうところの掘り起こしぐらいでないとなかなか人数を増やしていくことが難しいかなと思います。なので、できるだけ皆さんが参加できるような行事を選ぶということも大事かもしれませんが、誘われて、誘い、誘われなんで少しずつでいいですから交流を深めるような何か努力が必要かなと思います。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

加藤さん、何か御意見いかがですか。

○加藤委員

すいません。具体的にはまだ考えがまとまってはいないんですけども、お年寄りばかりでやってる中ではかなり限界があるんじゃないかと。どうしてもそこに若者た

ちの意見なり、それから交流っていうものがないと駄目だということは分かってるんですけども、先ほどおっしゃっておられたいろいろなツイッターであるとかLINEであるとかという方法で呼びかけはしてるんですけども、なかなか若者がついてきてくれない。その辺どうしたらいいのかなと。例えばいろいろな質問というか意見を聞くみたいな問いかけをするのも一つの手かなと思ったりもしてます。町会によっては、以前から自分の町会でホームページを作って発信をしているというところもあるんですけども、なかなか発信ばかりになってしまって意見を聞けるところまで行かないというのが同じような悩みだと思うんです。その辺で何か具体的なことがあれば逆に僕なんかも皆さんの意見が聞けたらなと思っております。町会によっては若者がいっぱいというところもあるんですけども、なかなか町会によっては百何十人もお年寄りがおってという状況の中で、なかなか、例えば、いろいろな体育大会であるとか、盆踊りであるとかいったところで、本当に僕、70、80の高齢者しかいないみたいなそういうところもありますんで、何とか若者にこっちに振り向いてもらう、参加してもらえる何か方法はないのかということを実際に考えてみたいなというふうに思っております。

以上です。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

横山さん。

○横山委員

これいつも地域福祉とか地域に参加する、人数を増やすというテーマにいつもなるんですけど大体若者ですよ。若者を取り込みたいという試みになると思うんですけども、彼らの心を代弁すると役割が分からないんですよ。町会なりそういう地域活動に参加されると何かさせられる、集まりごとに強制的に呼ばれる、こういうことやと思うんです。コロナがこれ、いきつけになってしまったのかどうか分かりま

せんけども、人と会うことがなかなかできなくなって、どうしてもインターネットとかそういうことに頼らざるを得ない時代になってきて、彼ら、地域で何が役割できるかと考えたときに、さっきの話とつながるんですけども、高齢者の方は区とかが情報を発する最優先のツイッターを使いにくい。けれども、若者はこれを使える。それなら、そこを結び、結んであげて、若者の役割としてそのツイッターの登録を手伝ってあげるといふ場所をつくるってなると、その二つの問題が解決するような気がするんですね。これはひょっとしたらもう小学生でもできるような話ですいません。ですので、学校とかいろいろなところに子どもたち、例えばツイッターの登録をできる方たちを集めて、高齢者の方に教えるという、登録の仕方を教えて、それを最初に登録するのにこの区のアカウントですか、これを登録させると二つの問題が一挙に解決されて、若者が地域に参加するきっかけができる、高齢者は今まで不得意だったインターネットのツイッターの登録ができるってなことをやってみたらどうかなと思います。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

平野さん。新東三国って結構いろいろ若い方と一緒にこういろいろとされてますよね。何か御意見等ございませんか。

○平野委員

はい、御存じのとおり、いろいろ交流の場を広げていってます。というのが、大学生とか行事、行事に大学生を呼んで、ほかの地域の大学生なんで持ち帰って自分の地域で生かせたらという意見を持って帰ってもらうんですけど、大体。それがこの地域内でできるのがベストなのかなと、今のお話を聞いていたら、思ったんですけども、その学生、若い人、若い人っていっても若い人って地域に住んでる人は出ていきますよね、一旦。帰ってくるにしても。なので狙いはどこなのかなと。私が入ったときってどうだったかなって考えたとき、お母さん世代ですよ。お父さん世代。あの小学生、中学生の。今、現在、子どもとの活動というのが少なくなってるので、小学生と

どうのこうのっていうのができない状態が続いているので、難しいのかなと思うんですけども、小学校区での行事。小学校とか中学校とかを巻き込んでの行事ができればいいのかなと思ってます。保護者を出してこないと出てくる人も出てこないかなって個人的に思うんですけども、なかなか今は難しいなと思ってます。

その大学生なんかは、新大阪の辺りには学校がいっぱいありますよね。そういうところの学校とお話をつけて来てもらうとか、そんなのを考えたらいんじゃないかなと思います。

以上です。

○田中議長

ありがとうございました。

もう一つだけ新東三国のほうって清掃活動されてますよね。地域で月に1回か。

○平野委員

公園のほうですか。

○田中議長

公園だったり河川敷とか。

○平野委員

クリーンウォークっていうのを年に3回ぐらい。

○田中議長

ああいうのは若い人たちも参加されていますか。

○平野委員

コロナ以前は小学生も含めて参加してもらってました。今は小学生、もう学校自体がノーと言うんで、地域の方とは一線を置いてという形なので今はできてないですけども、それまでは小学生を含めてクリーンウォーク、地域を掃除する。その後に何かの行事をすとか関連づけてやってることはありました。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

ほかの地域とかでそういう活動されているとかありますか。永野さんどうですか。

○永野委員

活動の話じゃなくなるんですけど。

○田中議長

活動じゃなくても結構です。ほか意見があれば。

○永野委員

すいません。毎回同じことを言って申し訳ないんですけど、私、今の地域福祉活動をそのまま維持するというのは無理だと思うんです。今までは60代、70代以上の人が担ってきたわけですけど、そもそもそれ以下の50代、60代の人的人数が減っていて、しかも60で定年退職できないでしょう、今。現役で働いている人が多いわけで、人手不足になって当然やと思うんです。それを今、このまま維持していくというのは無理やろうと。若い人たちを取り込むといっても、彼ら自身が面白いと思わない限り来ないし、そしたら今の地域福祉活動自体を彼らが喜んでやってくれるものかどうかというの見直さないと。それで最低限、ここだけは守りたいねというところを何とかして担ってもらおうという工夫を考えないといけないんじゃないかなと思うんです。

一つ、これやると振られるのは若い子嫌やと思うんですよ。だからお金は出すと。でも、企画から何から1回自分たちでやってみないっていうことやったら入ってくる人もいるんちゃうかなって思うんです。1回やってみたらどうかなと思ってるんですけど。

○田中議長

ありがとうございました。

その若者を取り込む、お金を出すとかそういう方向性は地域では考えらえた。

○永野委員

ないと思う。

○杉本委員

いいですか。

○田中議長

では、杉本さん。

○杉本委員

人を集めるというのはこれほど難しいことはなくて、私も町会やっている上でなかなか役員さんが集まってくれないので、福祉のところの以前の問題で福祉を担う人間をどうやって集めるかなって四苦八苦している状況なんですね。いろいろ考えてみると、来てほしい、来てくださいと言ってても人は絶対来ないんですね。私、昔PTAでソフトボールやってたんですけど、なかなか私も最初に入るときに物すごく苦労しました。十何人の方が練習してて、そこへ1人ぽつんと入っていきこうとすると、かなり勇気がないと入っていけないんですよ。入れてくださいって。そういうとこ、そういうことが人間あるので、ある程度その中の人「杉本さん、おいでよ。」って言ってくれないとなかなか入っていけない。そういうつながりを、人間関係つながりを持っていけないと人っていうのはなかなか集まれないんじゃないか。町会もそうなんですね。私らが、役員が入ってくれませんかって声かけないと、絶対自分から入ろうという人はいないんですね。だから、なるべく声かけようとするんだけど、私らだって好き嫌いがあるので好きな人しか入れないですよ。自分と性の合わない人絶対入れない、声かけないですから。そうすると全ての人に入ってくださいっていうのは無理なんですね。どうすりゃあいいのかなというふうについていつもよく考えるんですけど、ある程度人を集めるというのは強制力っていうのが必要なんじゃないかなって僕は思ってるんです。よくちっさい村とか地方の村なんかでも、ある意味、いろいろな村の会があったりとか、青年団とかがあってみんな仲よくやってていいなと思うかもしれないですけども、あれ多分村の長が若いやつをこっち来いよって強制的に集めてるから団体組

むんで、組んでる中でだんだん、だんだん1か月、2か月、3か月するうちに顔見知りになって仲よくなって、飲み友達になってそれで協力しよかっていうふうになってきてるような気はするんですね。私、そういうことが必要なんじゃないかなと思ってます。人を集めるっていうのはね。だから魅力のあるイベントをなさいってやって、私らそんな企画をする専門家でも何でもないのでそんなことできるわけがないし、そうすると、どこかでそういう強制的な強制力のある、どういうんですかね、組織みたいなものをつくって来なさいよと、1回。いうふうな形でだんだん、だんだんそうやって顔見知り、隣に住んでる人と顔を合わせて初めて寄っていくんじゃないかなと私は思ってますので、なかなかこれを、参加者を募集して来てくださいといってもなかなか、先ほど言われてましたけど、私はそのとおりだと思います。私も行こうかなと思うけども、まず時間も合わないし、休みしか行けないし、夜しか行けないし。ここへ来るのも夜だから来れるだけで昼間やったら絶対来れませんので。だから時間帯も違うし、休みの日にちも違うので、集まってくださいといってもなかなか集まれるもんじゃないかなっていうふうに。そこで悩んでるとなかなか難しい。それやったらどこそこの、どこにやるから何丁目の人はここへ来なさいというふうに言ったほうが、集めたほうがいいような気がします。まず、できないとは思いますが、そういうことはなかなかやりにくいとは思いますが、それぐらいの強権でないとなかなか人は集まってくれないんじゃないかなと私は思ってます。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

山本さん、何か。

○山本委員

集まりも今の時期できないのがなかなか現実だと思うんですけども、知り合いの方とかで実は子ども食堂したいんだとかってお話聞いたりとかするときもあるんで、そういう子ども食堂とかで食べ物やらお菓子とかももらえるってなったら子どもたちも集

まってくるのかなって思ってるんですけども、そこにパソコンとかそういうズームとかで市役所の方とかが間に入ってあげて、高齢者の方とオンラインでお話とかできる機会がもしつくれるのであれば、直接会わなくても話ができるよみたいな感じで、そのときにツイッターのこととかこう何して見てみたいな感じで子どもたちというか高校生でも大学生でも教えてあげたら何か、会わなくてもこう、お話とかできるしつながりができるのかなと思うんですけども、その間に何かが入らないと高校生とお話しましょうみたいな感じで、いついつパソコンを持っていきますみたいな感じでそういう橋渡しを誰かがしてあげないと、そういったのが難しいのかなと思ってるんですけども、子ども食堂とかはやってはる人もいらっしゃるし、そういう大学生とかもボランティアとかで来てはる人も多いと思うんですけども、後はそうですね、スーパーとかコンビニぐらいしか若い人って行かないかなって思うんですけども、そういったところに協力仰ぐとか、スーパーにパソコンで発信できるような端末を置かせてもらって、誰かと話してみようみたいな感じで何ていうんですかね、テレビでたまにあるじゃないですか、何かこうカメラを置いたら話ができるみたいな、芸能人と話ができるよみたいなそういう何ていうんですかね、取組みたいなのはもしあれば面白がってやる若者もいるんじゃないかなとは思うんですけども、何しかコロナ禍でなかなか10人も20人も集まれないというのがありますので、そういうオンラインで何かできるのを、システムを福祉関係につながるアイコンみたいなのがあればいいかなと思うんですけども。

以上です。

○田中議長

ありがとうございます。

それについて何か事務局。

○浅灘保健福祉課長

すいません、貴重な御意見ありがとうございましたとしかまとめられないんですけ

ども、1個だけすいません、永野さん、子ども食堂、十三やっていますか、今。

○永野委員

コロナになってから、あそこ密閉状態になってしまうんで。

物品配布。

○浅籬保健福祉課長

配布だけ。

○永野委員

はい。それもいつまでやれるかなという感じなんですけど。ただ、子ども食堂自体はすごい増えてますよね。

○浅籬保健福祉課長

今おっしゃったようにやりたいという声はよう聞くんですよ。ただ、コロナ禍でできないというのが実際あって、ここにはいてはらへんけど北中島とかすごい熱心に取り組んでるところもあったりして、十三もそうなんですけどね、というのがあって、そういうのができたらいいなど。今おっしゃったように、ズームのとかオンラインでっていうのは何かできればいいなとは思うんですけども。

はい。永野さんすいませんでした、急に。

○永野委員

いえいえ。

○浅籬保健福祉課長

すいません、貴重な御意見ありがとうございました。

○田中議長

ありがとうございました。

時間はそろそろ来てるんですか。加藤さん、何か御意見等ございませんか。

○加藤委員

先ほどちらっと。

○田中議長

ありがとうございます。

ではもう8時になってきましたので、次の項目「要援護者名簿の充実に向けた方策について」に移らせていただきます。

区役所より説明のほうをお願いいたします。

○大畑保健副主幹

お願いいたします。

「要援護者名簿の充実に向けた方策について」御意見をいただきたいと思っております。要援護者につきましては、介護が必要な高齢の方であったりとか、重度の障がいがある方、重い難病、人工呼吸器とかそういう機器をつけておられるような方など、いざ災害が発生した際に自分一人の力では避難することが難しく、何らかの手助けが必要な方を要援護者といいます。

現在、行政が持っております要援護者情報を基に地域への個人情報提供に関する同意確認をそれぞれの方に行った上で要援護者名簿を、同意を得た方に対しての要援護者名簿というのを作成しまして、地域に提供することで地域での見守り活動につなげていただいております。

地域がこれら要援護者の情報把握をして、日頃の見守り活動等を通じて顔の見える関係づくりを行うことができるように取組を現在進めているんですが、この地域への情報提供に同意いただける方というのを増やして、要援護者名簿を充実させることが必要となっております。送らせていただく文書に趣旨を分かりやすく記載をしたりとか、返信がない方に対しては再度連絡を取るなどの方策を実施しておりますが、今後どのような取組を行っていけばこの情報提供に同意いただける方を増やして、要援護者名簿を充実させることができるのか、委員の皆様の御意見をいただきまして要援護者名簿を基にした地域での見守り活動につなげていきたいと思っております。

よろしくをお願いいたします。

○田中議長

ありがとうございました。

それでは、意見交換に移らせていただきます。

ただいまの要援護者名簿の充実に向けた方策についてというので御意見をお願いいたします。

○永野委員

すいません、質問なんですけど。

名簿のこの内容なんですけど、これはお名前と。

○大畑保健副主幹

何が載ってるかですか。

○永野委員

うん、情報の内容はないんですか。

○大畑保健副主幹

同意のところでは、御本人さんの世帯の。

○永野委員

世帯。

○大畑保健副主幹

御本人さんに必要事項を記入してくださいということをお願いしておりますのは世帯の状況であるとか、緊急時の連絡先、あと福祉サービスの利用状況、支援の際に配慮が必要な事柄ということで、そういったことを書いていただいて、出していただいております。

○永野委員

年齢とかはないんですね。

○大畑保健副主幹

年齢とかはもうこちらのほうで全て名簿で初めから分かっておりますので、それは

もともとの抽出をするときに初めから分かっていることとしてお配りをさせていただいております。

○永野委員

あと、地域に提供するというのは町内会とかですか。

○大畑保健副主幹

書き方としましては、区役所が認定した地域団体等ということと、あと民生委員、児童委員、区社会福祉協議会に対して情報提供させていただきますということで、地域の団体という書き方にさせていただいております。

○永野委員

名簿の、そうしたら管理の責任者は誰になるんですか。

○大畑保健副主幹

管理の責任者は、一応、地域活動協議会のほうと協定を結ばせていただいて、個人情報を持っていただく方を各、大体、町会の会長さんとかが多いんですけど、事前はこちらのほうに提出いただいております。

○永野委員

分かりました。ありがとうございます。

○田中議長

皆さん、この要支援、要援護者名簿というのを御存じですか。名簿があるという。

○佐々木委員

もらってます。

○田中議長

ほか、加藤さん。

○加藤委員

あるというのは聞いたことあるんですが、実際目にはしてないです。

○田中議長

杉本さんは。

○杉本委員

はい、あるのは聞いてますけど、実際には見たことないですね。

○田中議長

平野さんは。

○平野委員

あるというのは知ってます。

○田中議長

山本さんは。

○山本委員

知らない。

○田中議長

知らない。横山さんは知ってますか。

○横山委員

存在だけですね。

○田中議長

私も一応民生委員やってますんで、持ってるんですけども。これって何年ぐらい前からでしたっけ。

○大畑保健副主幹

もともとは、一番初めは平成25年だったかと思います。もともとは。ただ、少し事業の編成とかがありまして、27年からが本格開始という形だと思いますが。

○横山委員

同じ質問なんですけど、このことをやってること自体は要援護が必要な方のみにそういう情報を発信して、こういう名簿が作成されて、誰それにそういう情報が行ってますよということは区民には広くは伝わってないという現状と認識でいいですか。

○大畑保健副主幹

そうですね、一応、年に1回その要援護者名簿を送らせていただくときに、「よどマガ！」のほうにも掲載をさせていただいておりますし、あと、区社協の便りですね、区社協便りのほうにもこういった業務をしております、事業をしておりますということも書かせていただいております。

○横山委員

なるほど。ということは、我々はそういうのを見てるはずですけど認識不足ということになりますもんね。詳しく知らないですもんね。

○大畑保健副主幹

はい。

○横山委員

いいですか、ついでに。このいかに増やすかというテーマですよ。名簿の人数を。今まで私が発言したこととは全く逆になるんですけども、これは超アナログでしかなし得ないような気がするんです。はがきが、はがきなり封書がその本人に来ます。中身見ます。なかなか理解できない、誰かに聞く、お隣さんに。お隣さん、その区民便り見てない、いや私知りませんとなると、もっと大きく宣伝している、不審なものには個人情報渡さない。不審な電話には応えない、こっちがもうさんざん宣伝されてる中で、これが御本人に来たときに、隣の人に聞いても知らん、そこに情報を提供しようとは思わないと思うんですよ。これを成し遂げようと思うと、結局先ほどの逆の話で、町会長さんのところに聞きにいったら、町会長さんがいや、それ安心やから出しといてと。さらにはもっと隣近所の人も知ってて、それぞれ私知ってるよと、区役所がちゃんとやってることやから出しといたほうがいいよとお墨つきがあれば初めて出すような気がするんですね。これはもう先ほどと、私、全く話が逆で、いかにアナログの組織構成をうまく使って、その人たちに協力を求めるしかないと思います。

○田中議長

杉本委員、お願いします。

○杉本委員

すいません、私も勉強不足で申し訳ないんですけど、この要援護者名簿のほうに掲載してもらおうと、掲載した人はどんなメリットがあるんですか。

○大畑保健副主幹

そこが少し難しいところで、何らかの情報をお知らせすることで地域における日頃の見守り活動や災害時の支援の準備などに活用しますということでは書かせていただいているんですけど、そこが具体的にというところになると地域によって見守り活動というのをやってらっしゃる状況も違ってきますので、少しそういった何ていうんですかね、ばくっとした言い方しか少しできてないというところも、これを出したところでイメージがなかなか、じゃあ具体的にどういうことをしてもらえるのかというところがなかなかこちら書きにくくて、少しそういった抽象的な言い方になってるのは問題なのかなというのは思っておりますけど、なかなか具体的に書きにくいところもありまして、一応そういう記載の方向になっております。

○杉本委員

僕が危惧するのは、例えば、それ書いたら、例えば大地震になったときに必ず助けにきてくれはると思いこまれるのは、つらいんですよ。逆に町会に入っている役の人間としたらね。私、ちゃんと名簿出してるのに何でうち来てくれへんかったんと言われると、自分らは、私らも人間なんで自分らが**を**まず助かることを考えますんで、その人たちはどうしても後々になるんですね。だけど、助けてほしいのはそのとき皆さん助けてほしいのはもう人情なんですよ。そこへ手を入れられない状況になったときに、果たしてどうなのかなというのは、私自身もそこに葛藤がすごくあって、やっていいもんやろうか、町会としてやらないかんもんなのか、手出さんほうがええんちゃうかなと思う部分もあるんですよ。そこをどう判断したらいいか教えてください。

○大畑保健副主幹

はい、杉本委員おっしゃるとおりなんですけど、まず災害時と言っちゃったので余計あれだと思っんです。災害時は言ったらまず自助、公助というところがあるのでなかなか全員の方を助けられるかと言ったら難しいと思っんですね。先ほどおっしゃったように、この同意書を取るときに書いているのは、この取組は御近所同士の助け合いを基本とするものです。だから情報提供に同意することで、御本人が希望しておられる見守りの支援が保障されるものではありません。だから、そこには少し御本人さんが希望されていることと、実際の地域でやっている見守りというのは差があるんですよということは一応、線を引かせてもらって書かせてはもらっているんですけど、ただそれがどこまで同意をされた方に伝わるかというのは難しいんですけど、なかなかそういった委員、御指摘のようなところで齟齬があるところがありましたので、同意書にはそういった部分も明記はさせていただいております。

○田中議長

ありがとうございました。

ほか、御意見ございませんか。佐々木さん、お願いします。

○佐々木委員

要援護者名簿のほうを私、保管しているんですけど、区役所から社協への伝達が何と申しますか、社協から町会長への伝達が違うのかもしれないですけど、誰にも見せたらあかんというような秘密主義というか個人情報なんで、漏れないようにというような形で渡していただいているんでなかなか人にも見せれないですし、例えば何かあったと、災害だけじゃないとおっしゃってるんですけど、災害のときにその名簿を見て、町会長が一々こう、1軒ずつ行くというのは無理やと思っんですね。塚本の中では敬老調査のときにお一人住まいの方の調査をしてるんで、今のところお一人住まいの方については町会長、女性部長、民生委員で友愛訪問とかしてまして、日頃は民生さんをお願いしてるんですけど、年に1回、粗品なんかを持っていったりして、見守り活動をしてるような状況で、その独居の登録されてる方と要援護の両方登録されて

いる方もいらっしゃるって、要支援のほうはさらに体が不自由な方とか、そういうような形で年齢がもっと若い方とかそういうような方が、こっちよりもまだ多めに登録されています。現状では。なので、なかなか使いづらい名簿には間違いないかなと。これをどうやって使いこなすかというのはなかなか隣近所の方に何かあったらこの人見てくださいねとかっていうことができればいいですけど、なかなかそういうわけには行かないみたいな何か難しい感じがしてます。

以上です。

○田中議長

ありがとうございました。

私もそう思います。

永野さん、何か御意見とか。

○永野委員

でも、すいません、マンションの中老人だらけなんですよ。だからもう住人は年取ってるし、建物は年取ってるしという老々介護状態で、本当に何かあったときに逃げられるのかなという状態なんで、確かに個々の人たちの状況を把握して、何かのときには、とは思いますが、もう本当にマンパワーがないんです。すごい地道な御近所で仲よくしようねっていうぐらいしか手がないですね。それを本当に私たちができるといっているのはもう無理だと思います。せめてマンションの同じ階の人たちの顔ぐらいは知っておこうって、状況ぐらいは知っておこうっていうぐらいしか実際にはできないです。

○田中議長

ありがとうございました。

○杉本委員

もう一つだけ教えてください。この要支援要介護者という方は、例えば、お一人、独居の方だけじゃないですよ。御親戚とか御兄弟おられる方ですよ、もちろん、息

子さんとか。

○大畑保健副主幹

この要援護者というのは少し、家族状況とかは全く関係なくて、先ほどいった要介護5の方とか知的の障がいをお持ちの方とか、そういう何ていうんですかね、障がいとかの程度によって一人では避難できないであろう方なので、当然その中では家族と住んでおられる方とか独居の方とかで状況は違ってくるというのはもちろん分かってるんですけど、そこは加味されてなくて、要援護者名簿というのはあくまでも抽出するのがそういう条件になってますので、少し家族状況とかそういったところを加味したものではありません。はい。

○杉本委員

こういう方を補佐するっていうか、手助けするっていうのは私も近所の人に1人、頼まれた方がおられるんですよ。電話番号渡されて、何かあったら来てねっていうふうに言われて、個人的に。私、困りまして、どうしようかなって。嫌とも言えませんので「はい、はい」って受け取ってるんですけども、正直いって、赤の他人にそれを渡されてもね、どうしようもないなというふうに私、個人的には思ってたんですね。御近所に誰か家族の方いてはるんですかいうたら近所に息子さんおられるんですよ。私も、亡くなりましたけど母が近所に住んでまして、独居してたんですけども、何かあったら駆けつけられる距離やったんで、そこまで他人さんに迷惑かけることもないわなというふうに思ってたんですけども、私が思ってるのは、その方が名簿を出されて他人に知られるということは、その人はその意思でいいと思うんですけど、御家族の方はどう思ってるのかなと思ってね。例えば、遠くに住まわれている息子さんとか、方が、いや、それはええことやなっていうふうにおっしゃってるのか、いやもうそんなどこの馬の骨とかも分からんやつに頼むのやめとけというふうに思ってるのかどうなのかって、そこが一つ疑問やったんでお聞きしたかったんですけど。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

○大畑保健副主幹

この同意書はあくまでも御本人さんの同意ということで、あとは御本人から直筆で書けない場合には、代書の方とか代理の方が書いてくださいという状況なので、あくまでも御本人さんの意思というところなので、中にはもちろん御家族に相談をしてこんなん出そうと思ってんねんけどって相談される方もいらっしゃいますし、御自分のお気持ちで書かれる方もおられますので、そこまではなかなかこちらも把握も強制もなかなかできにくいというところがあるんですけど、先ほど永野委員おっしゃったように、本当に何ていうんですかね、マンパワーの問題とか個々の人の状況を全て把握するっていうことはなかなか地域の日頃の見守りでも難しいと思いますので、まさしくおっしゃられたような住民同士が顔が見える関係づくりを進めて、地域内でのそういう支え合いを推進するというのがこの事業の目的ですので、まず顔が分からないと当然、どういった方がいらっしゃるかも分からないというところで、どうしてもこういう事業をやると、私たちが助けなあかんとか、こうしてもらわないといけないというところがどうしてもクローズアップされるんですけど、少し地域における日頃の見守り活動ということで、緩やかな見守り活動ですね、お互いに顔を知っていたりとか、地域福祉活動もそうですけど、そういったところに少しつなげていただきたいというこちらの思いというところでございます。

○田中議長

はい、ありがとうございました。

この要援護者名簿の返ってくる、区のほうから出されて、じゃあお願いしますって大体どれぐらいの割合なんですか。

○大畑保健副主幹

昨年の11月ぐらいのデータだったと思うんですけど、49%ぐらいです。淀川区は。それ以外は不同意で返ってくるものと、あとは全く返信がないものということに

なりますけど、24区中17番目ぐらいですかね、順位としては。

○田中議長

半数近くがもう。要援護、じゃあ、お願いしますという形。

○大畑保健副主幹

そうですね、同意しますということで御返信があったのが49%。これはなかった方に地域の見守り支援員さん何かが、もう1回、出しておられないんじゃないですかという形で少しお尋ねいただいたりとか、再送付のお願いをしているというところの効果もあるかと思うんですけど、ただ、24区中でいうと下のほうにはなりますので。はい。

○杉本委員

手を挙げたいという人は多いんですね、でも、半分ぐらいおられるということが多いんですね。助けてほしいと思ってる人は多いんだ。なるほど。

○田中議長

ほか、何か御意見等ございませんか。

はい、佐々木委員、お願いします。

○佐々木委員

要援護者名簿で、うちの町会なんですけど御夫婦で入られてて、御主人が重度の病気になるたんで御夫婦で要援護ということで登録されてたんです。奥さんのほうも結構、旦那さんが亡くなられてから奥さんのほうも結構厳しい状況だったんですけど、手を挙げたところ、介護認定が低いっていうか、なので、登録できなかったんですって言うてはったんです。これって介護認定いうのは何級とか、以上の方でないという規定があるんですか。

○大畑保健副主幹

もともとの名簿の抽出自体が要介護5以上で、あと認知症のことで2以上ということで、これは大阪市全体で決まっています。ただ、その要援護者名簿で抽出するのは

そういう少し重度の方なんですけど、もちろん地域状況の中でこの人とか見守りが必要とか支援が必要という方につきましては、その名簿に地域で加えていただいてもいいということに、確かなってたと思いますので、一応、抽出条件としてはかなり障がいの方が重い方になってるんですけど、そこに家族状況とか、置かれている状況とか加味していただいて、その名簿に地域が把握してはる情報を追加して、名簿にプラスをしていただくというのは別に問題はないということで、以前とか、ワークショップとか各地域、去年は1年できてませんが、以前、ワークショップをしたときには、この名簿に入っていない人、この人受けて、この人実際は要介護度5じゃないけど支援必要よねっていう人は地域で名簿に足してもらってたと思うんです。ですから、そういう形での活用というのは、地域の見守り活動に生かしていただくものベースになるものですので、そこは全然追加して見守っていただくというのはありがたいというふうに思っております。

○佐々木委員

その方、御主人がなくなられたんで、お一人住まいだったんで一応塚本のほうには入っているんで、一応見守りはさせてもらってます。

○大畑保健副主幹

要介護5なので、かなり介護度が高いという方が抽出されているということになります。

○横山委員

要介護5以上というのはその用紙に書かれてあるんですか。要介護5やからあなたに送ってますと。

○大畑保健副主幹

高齢者という欄に確か丸がついてたと思います。障がい者、高齢者、名簿自体は。それ見たら、高齢者のところに丸がついていたら要介護5。

○横山委員

御本人に届くその書式には。

○大畑保健副主幹

御本人さんには全然書いてないです。

○横山委員

書いてないですか。ほんなら、私も聞いた事例でね、隣の人同士で、私届いてんけどあなた届いてると。あなた届いてないのに何で私だけ届いてんのと、いうことも聞いたことあったんで、その、なぜあなたに送ってきたかという情報は本来欲しいような気はします。

○大畑保健副主幹

はい。おっしゃるとおり、あなたがどういう状態やからというのは確かに書いてないかなとは思いますが。

○横山委員

それがさっき言いました不信感につながって返信、返す頻度は低い要因の一つのような気はします。

○大畑保健副主幹

分かりました。次年度、またチラシを作成する際には少し考慮させていただきます。ありがとうございます。

○田中議長

ありがとうございました。

そろそろ時間も来ておりますので、何か最後、御意見等ございませんか。

本日の議題は以上でございます。最後に、全体を通して何か御意見や御質問はございませんでしょうか。

○横山委員

最後にいいですか、すいません。

○田中議長

横山さん。

○横山委員

すいません、何度も。今日は非常に建設的な意見でいい会議やったと思うんですけども、よくこういうスタイルでやってしまうと、区に対する苦情とクレームと要望だけで終わる可能性が高いんですよ。この会議の席を、これは私の個人的な意見ですよ、交互に区役所の方も入っていただくとか、何か対立姿勢になっている構図を変えはったほうが、もっと意見が言いやすい場になるような気がするので、改善をいただければなと思っています。

○田中議長

そういうことだそうです。

○横山委員

何か言ったろうみたいな感じにしまいがちなんで。今日はそんなことなかったんですけど、よくあること。

○田中議長

皆さん、穏やかな人ばかりなので。今日の席の配席のほうがいいということ。

○横山委員

いや、もっと。

○田中議長

交互に、交互に。

○横山委員

でもいいですし、委員、区役所じゃなくても、中に入れていただいて。

○田中議長

委員、区職員、委員、区職みたいな。

○横山委員

個人的な……。

○田口政策企画課長

検討させていただきます。ありがとうございます。

○田中議長

検討してみてください。

ほか、何か御意見等ございませんか。

○杉本委員

すいません。

○田中議長

はい。

○杉本委員

すいません、私、これいただいて、それ私なりに予習したつもりではあったんですけども、正直いってここへ来てお伺いするまでこのこの内容の趣旨がうまくのみ込めてないんですよ。どういう話をしたらいいのか、自分で考えてきた質問内容とかがうまく言えなかったんで、何かこうどういうことを考えていったらいいかという、こういう資料頂くときにもうちょっと分かりやすくしていただければありがたいなと思って、すいません。でないと、さっき、最後、要支援の話も、結局名簿の充実をどうしたらいいかということですよ、最終的にはね。我々がどう手助けしていくかという話じゃなくて、取りあえず名簿を充実させたいという話なんですよ、最終的にはね。そのための意見なんだけど、私が言ったことはそこから外れてたような気がして申し訳ないなと思った次第なんで。すいません、よろしくお願いします。

○田口政策企画課長

そうですね、事務局としてもこういったペーパープラスもうちょっとといいますか、例えば用語説明であったり、大前提でこういうのが事実としてあるとか、周辺情報をもっとつけていくようにしたいと思いますので、ありがとうございます。

○田中議長

そのほか何かございませんか。そういう意見もあってもいいと思います。必ずしもこれに沿った意見でなくても、その中で恐らく区のほうはいろいろ組んでくださると思うんで。

○田口政策企画課長

よろしく願いいたします。

○田中議長

では、時間も来ましたので、進行のほうを最後、事務局のほうにお返ししたいと思います。ありがとうございました。

○田口政策企画課長

どうもありがとうございます。田中議長、議事進行ありがとうございました。

今日、たくさん御意見いただきましてありがとうございます。時間の関係で発言できなかった御意見等ございましたら、お手元の御意見表にて記入の上、3月1日、一応締め切りとさせていただきますので、事務局までメールまたは返信用封筒にて御提出のほうをお願いします。

次回の区政会議につきましては、また全体会議ですね。3月の中旬から下旬ぐらいを予定しておりますけども、例の新型コロナウイルスの関係もございまして、その辺また判断させていただきたいと思いますので。

あと、「区政会議全体会開催にかかる日程調整」ということで、これも御提出いただいていない方がいらっしゃいましたら、本日お帰りの際に事務局のほうに都合の悪い日程をお伝えいただきますようお願いいたします。

それでは、淀川区区政会議安全・安心なまち部会を終了いたします。

本日は長時間にわたりましてありがとうございました。

—了—